

在宅患者の状況等に関するデータ

訪問診療の対象患者について

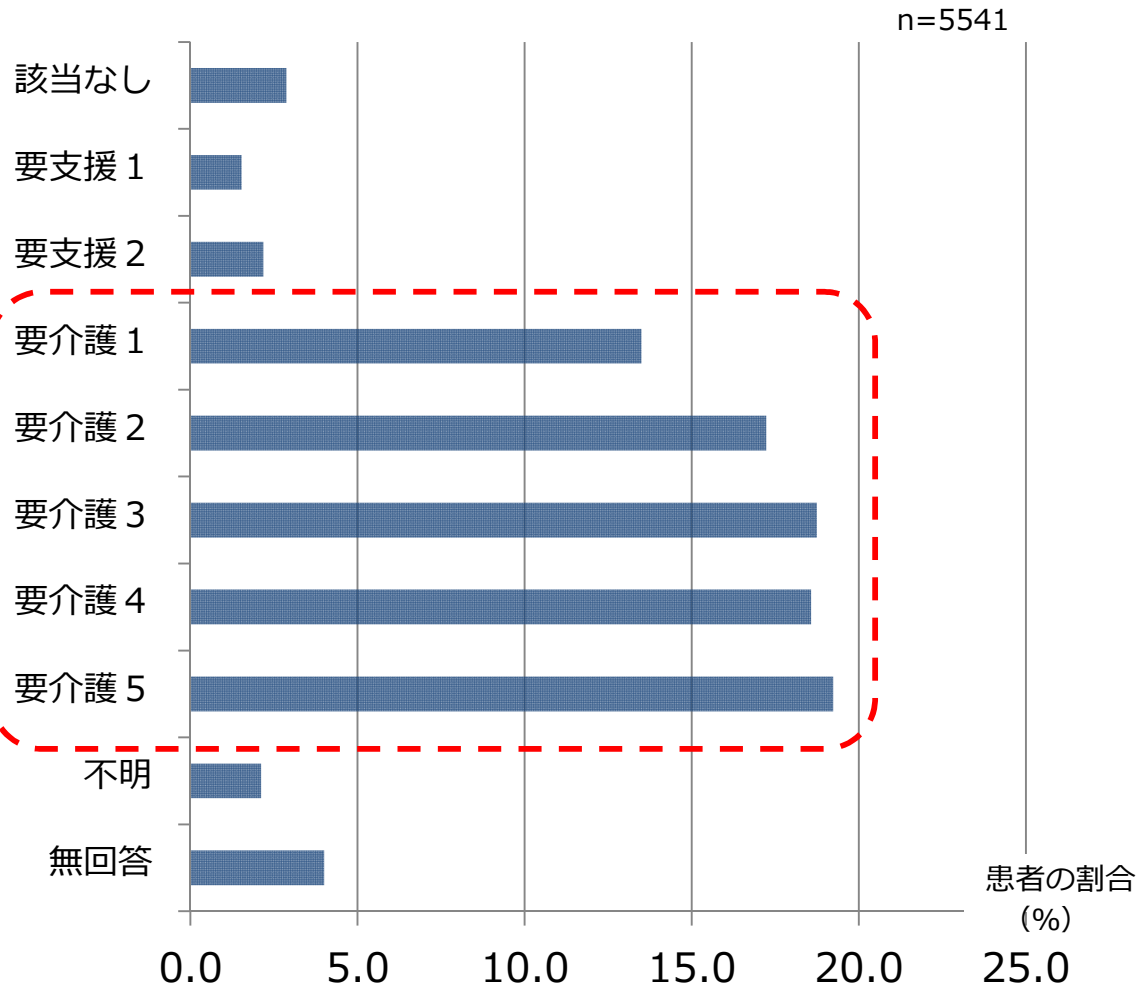
＜患者の要介護度・認知症自立度＞

中医協 総 - 6

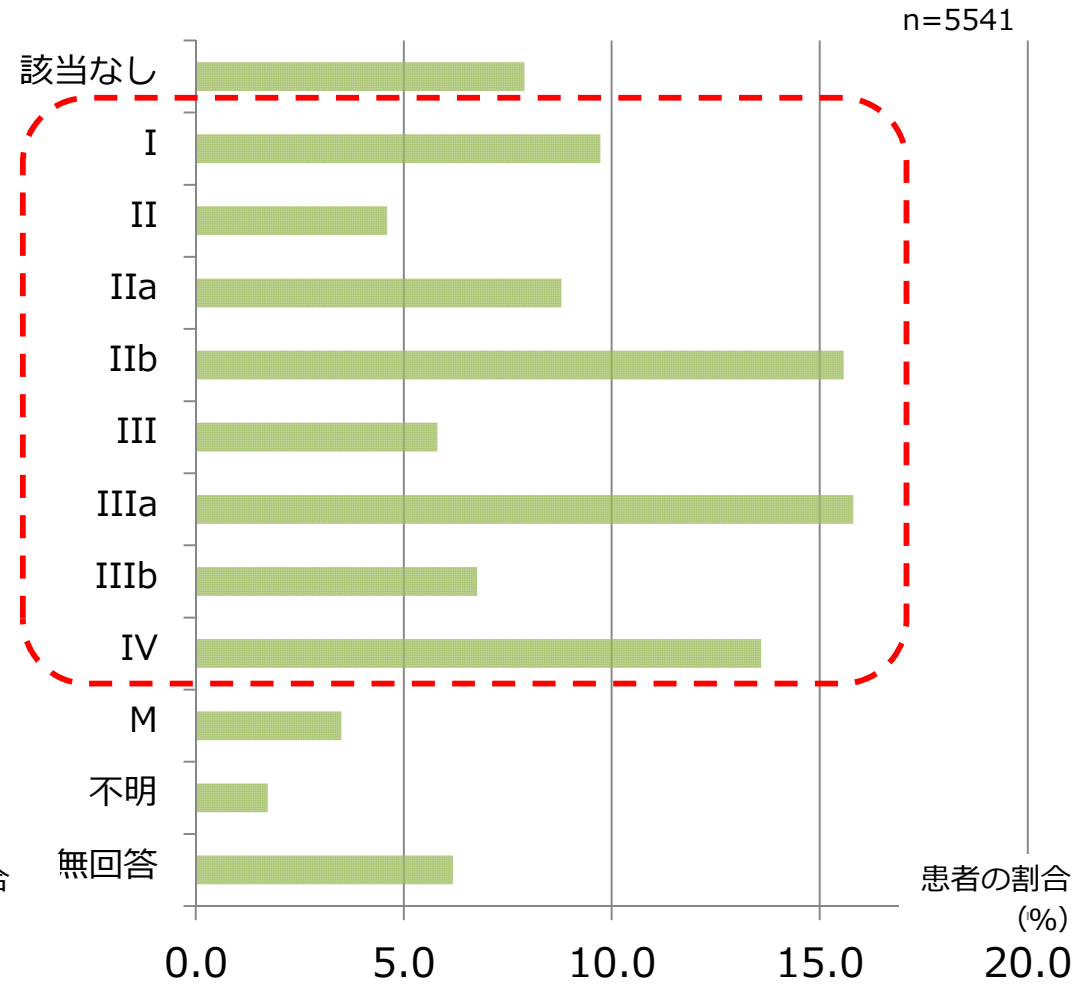
27.2.18

- 在宅患者の85%以上は要介護状態にあり、各要介護度の患者がそれぞれ10%以上存在する。
- 認知症自立度についてはランクIからランクIVまで、幅広く患者の分布がみられる。

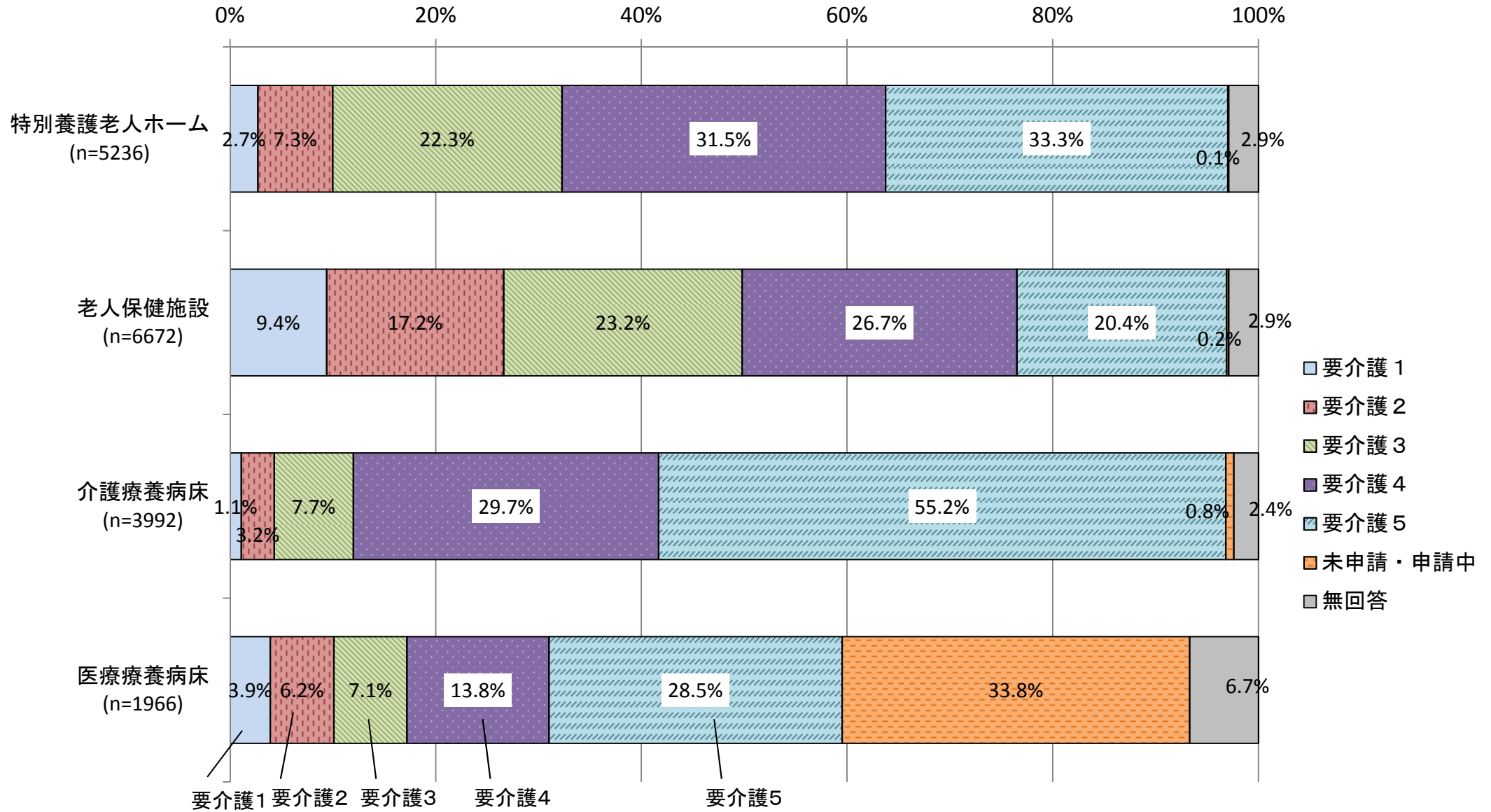
＜要介護度別の患者割合＞



＜認知症高齢者の日常生活自立度別の患者割合＞

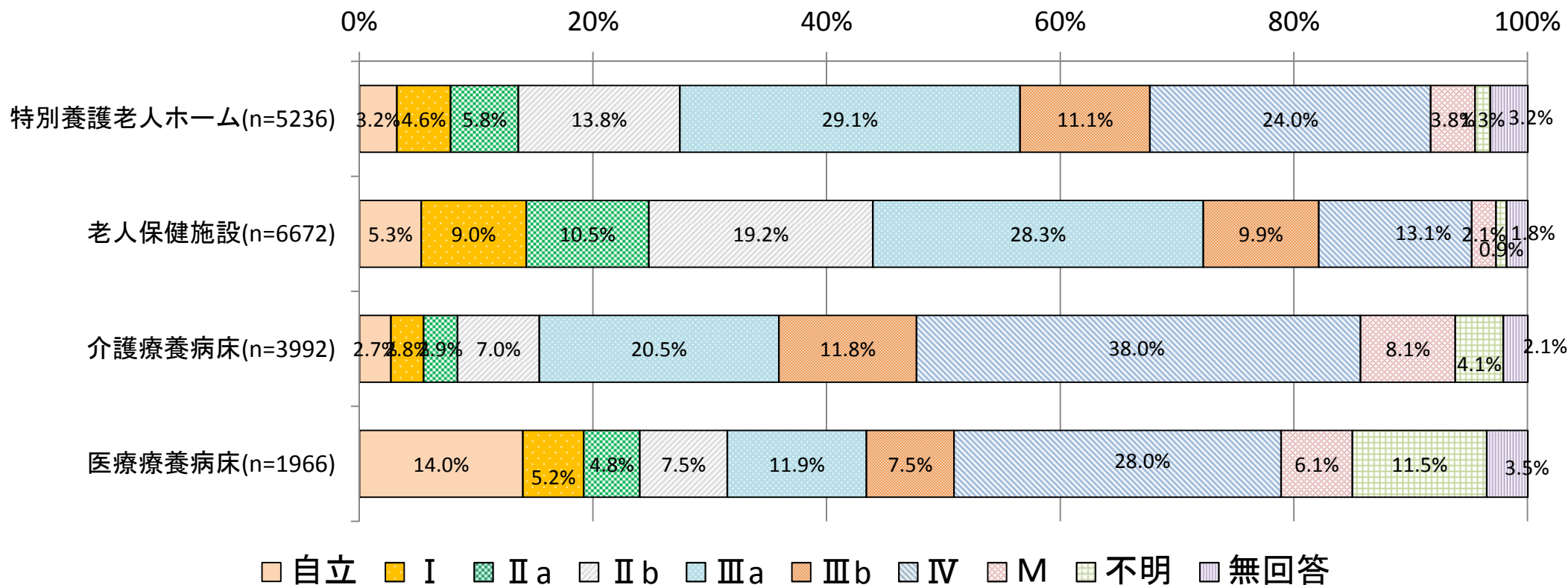


【参考】要介護度



(出典)平成24年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(平成26年度調査)「介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査研究事業報告書」

【参考】認知症高齢者の日常生活自立度



ランク	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 (II a : 家庭外で上記IIの状態がみられる。 / II b : 家庭内でも上記IIの状態が見られる。)
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。 (III a : 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。 / III b : 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。)
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

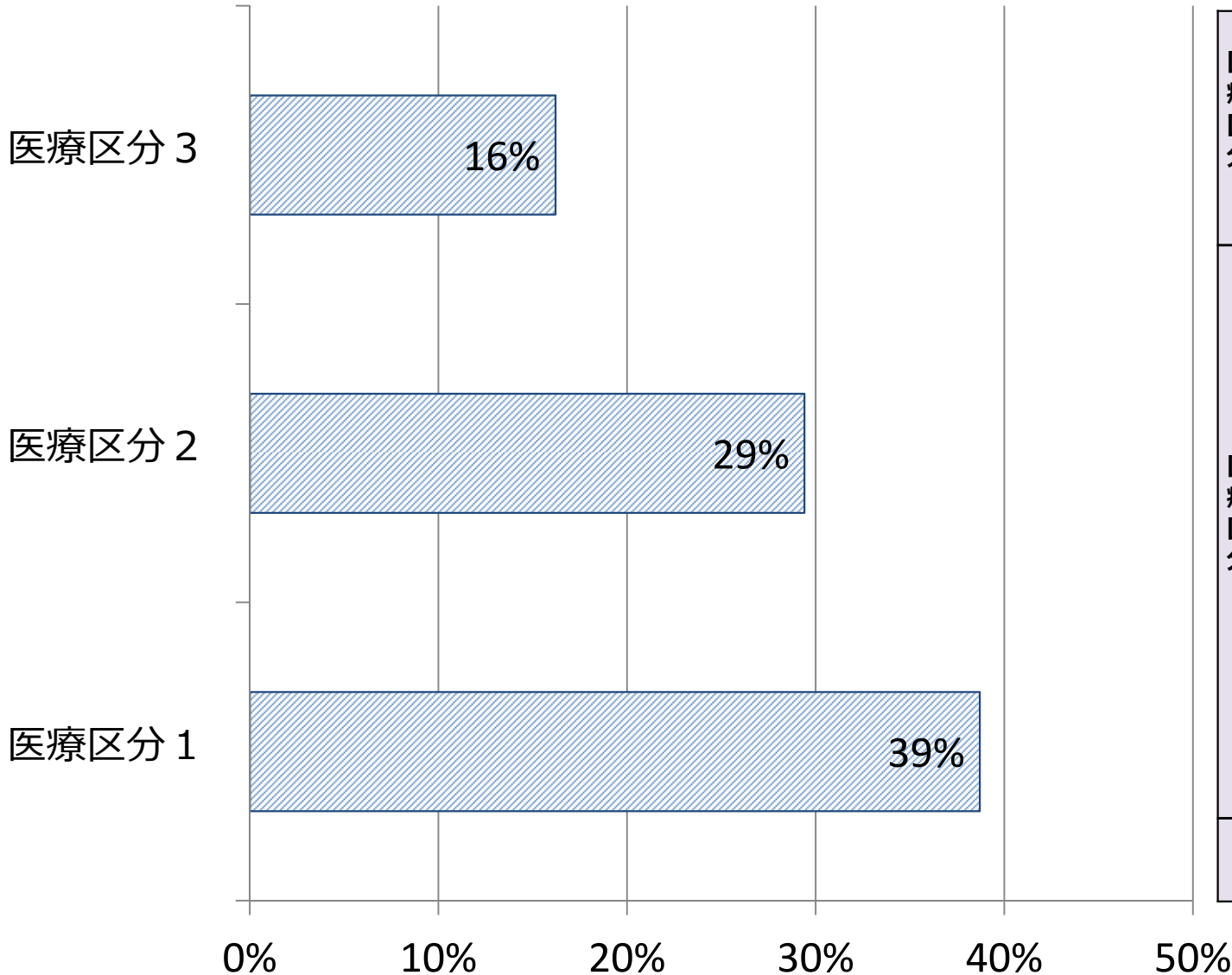
(出典)平成24年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(平成26年度調査)「介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査研究事業報告書」、「要介護認定における「認定調査票記入の手引き」、「主治医意見書記入の手引き」及び「特定疾病にかかる診断基準」について」(平成21年3月31日老老発第0331001号厚生労働省老健局老人保健課長通知)

訪問診療の対象患者について

<医療区分>

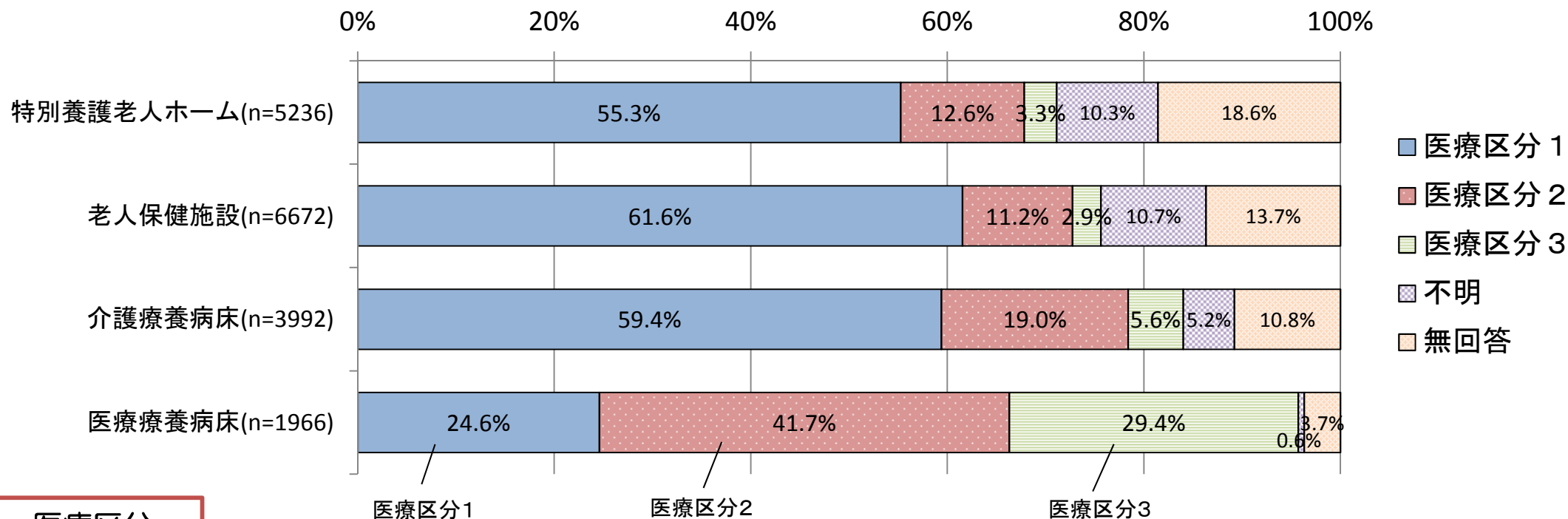
<訪問診療対象患者の医療区分>

n=364



医療区分 3	<p>【疾患・状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモン ・常時監視、管理を実施 <p>【医療処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間持続点滴 ・人工呼吸器使用 ・胸腹腔洗浄 ・感染隔離室 ・中心静脈栄養 ・ドレーン法 ・気管切開等（発熱+） ・酸素療法
医療区分 2	<p>【疾患・状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィー ・筋萎縮性側索硬化症 ・パーキンソン病関連疾患・その他の難病 ・脊髄損傷等 ・悪性腫瘍（疼痛コントロール） ・肺炎 ・リハビリテーション（30日以内） ・脱水かつ発熱 ・頻回の嘔吐かつ発熱 ・下肢末端開放創 ・うつ状態 ・多発性硬化症 ・慢性閉塞性肺疾 ・尿路感染症 ・体内出血 ・褥瘡 ・せん妄 ・暴行 <p>【医療処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析 ・喀痰吸引 ・血糖検査 ・創傷（皮膚潰瘍 ・手術創 ・創傷処置 ・経腸栄養（発熱等+） ・気管切開等
医療区分 1	医療区分 2・3 に該当しない者

【参考】医療区分



医療区分

医療区分3	<p>【疾患・状態】 ・スモン ・医師及び看護師により、常時監視・管理を実施している状態</p> <p>【医療処置】 ・24時間持続点滴 ・中心静脈栄養 ・人工呼吸器使用 ・ドレーン法 ・胸腹腔洗浄・発熱を伴う場合の気管切開、気管内挿管 ・感染隔離室における管理 ・酸素療法(酸素を必要とする状態かを毎月確認)</p>
医療区分2	<p>【疾患・状態】 ・筋ジストロフィー ・多発性硬化症 ・筋萎縮性側索硬化症 ・パーキンソン病関連疾患 ・その他の難病(スモンを除く) ・脊髄損傷(頸髄損傷) ・慢性閉塞性肺疾(COPD) ・疼痛コントロールが必要な悪性腫瘍 ・肺炎 ・尿路感染症 ・リハビリテーションが必要な疾患が発症してから30日以内 ・脱水かつ発熱を伴う状態 ・体内出血 ・頻回の嘔吐かつ発熱を伴う状態 ・褥瘡 ・末梢循環障害による下肢末端開放創・せん妄 ・うつ状態 ・暴行が毎日みられる状態(原因・治療方針を医師を含め検討)</p> <p>【医療処置】 ・透析 ・発熱又は嘔吐を伴う場合の経腸栄養 ・喀痰吸引(1日8回以上) ・気管切開・気管内挿管のケア ・頻回の血糖検査・創傷(皮膚潰瘍・手術創・創傷処置)</p>
医療区分1	医療区分2・3に該当しない者

訪問診療の対象患者について

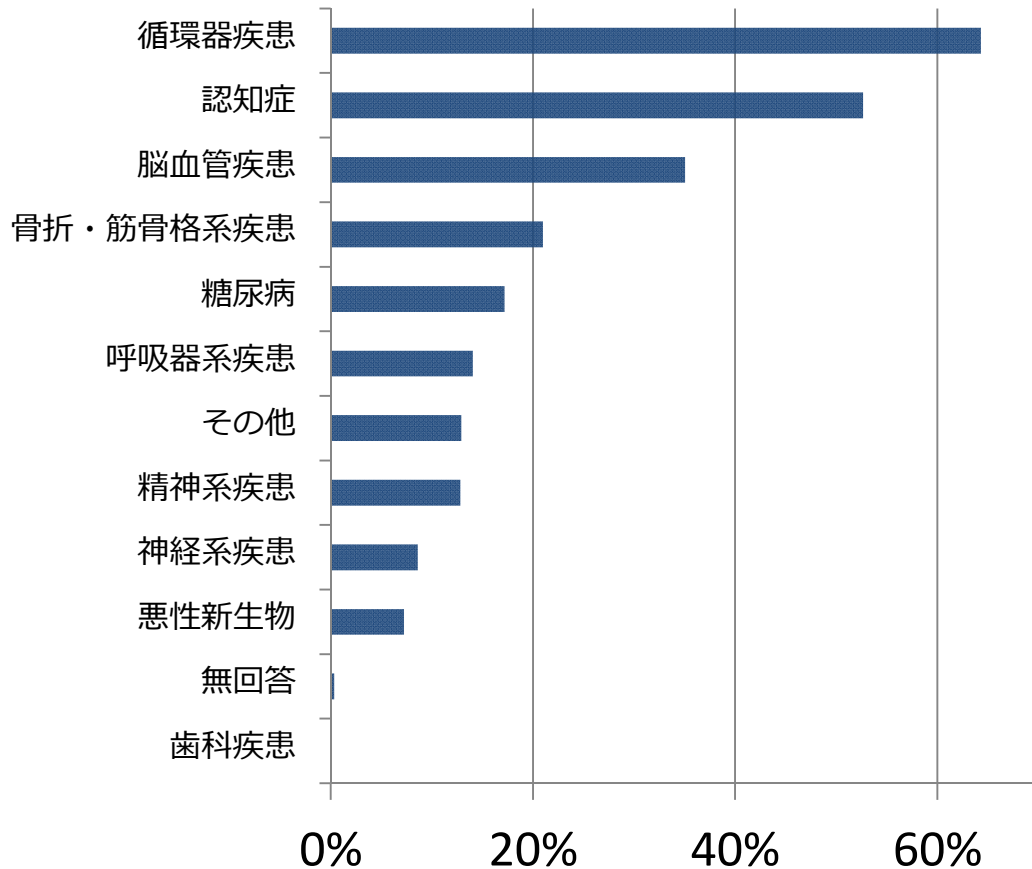
＜患者の疾患＞

中医協 総 - 6
27. 2. 18

- 在宅患者の基礎疾患は多様であり、特に循環器疾患・認知症・脳血管疾患を抱える患者の割合が大きい。
- 別表7に規定する疾病等に該当する患者は全体の15%程度である。

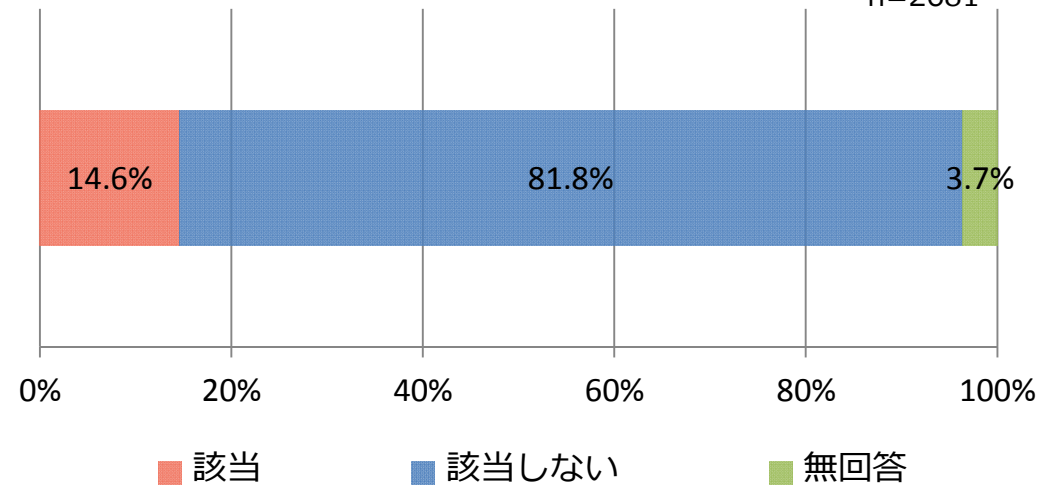
＜疾患別の患者割合＞

n=2681



＜別表7に規定する疾患への該当割合＞

n=2681



別表7に規定する疾病

- | | | |
|-----------|-----------------|--------------|
| ・末期の悪性腫瘍 | ・多発性硬化症 | ・重症筋無力症 |
| ・スモン | ・筋萎縮性側索硬化症 | ・脊髄小脳変性症 |
| ・ハンチントン病 | ・進行性筋ジストロフィー症 | ・パーキンソン病関連疾患 |
| ・多系統萎縮症 | ・プリオン病 | ・亜急性硬化性全脳炎 |
| ・ライソゾーム病 | ・副腎白質ジストロフィー | ・脊髄性筋萎縮症 |
| ・球脊髄性筋萎縮症 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | ・後天性免疫不全症候群 |
| ・頸髄損傷 | ・人工呼吸器を使用している状態 | |

※患者票のデータを、日計表における同一建物/非同一建物患者の人数にあわせて重み付けして集計

出典：平成26年度検証部会調査（在宅医療）

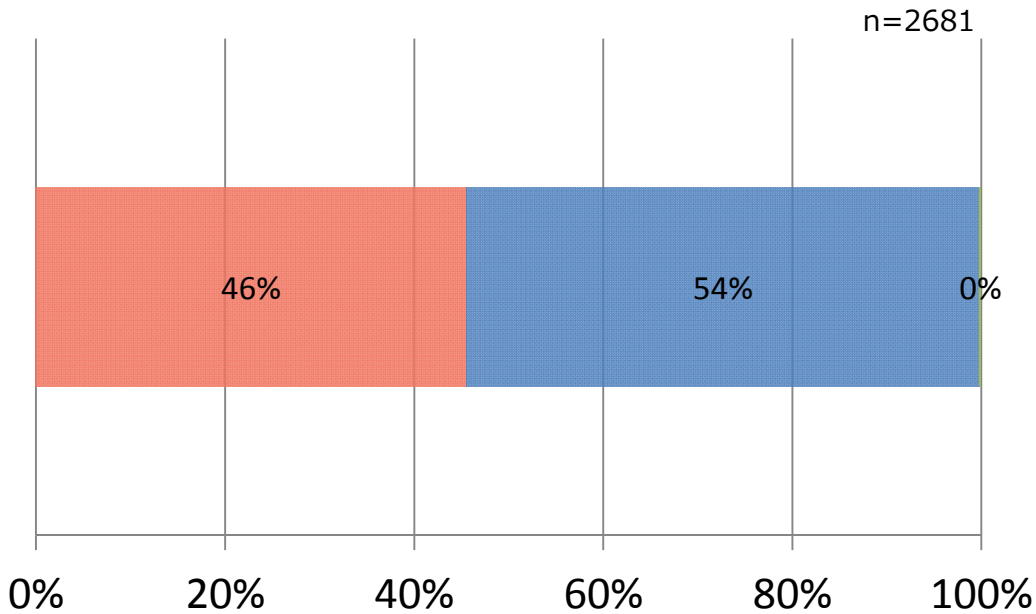
患者の診療状況について

＜提供している医療内容＞

中医協 総 - 6
27. 2. 18

- 在宅患者全体の45%程度は調査項目のうち「健康相談」「血圧・脈拍の測定」「服薬援助・管理」のみに該当する一方、残りの55%は「点滴・中心静脈栄養・注射（約11%）」等何らかの処置・管理等を実施されている。

＜提供している医療内容＞

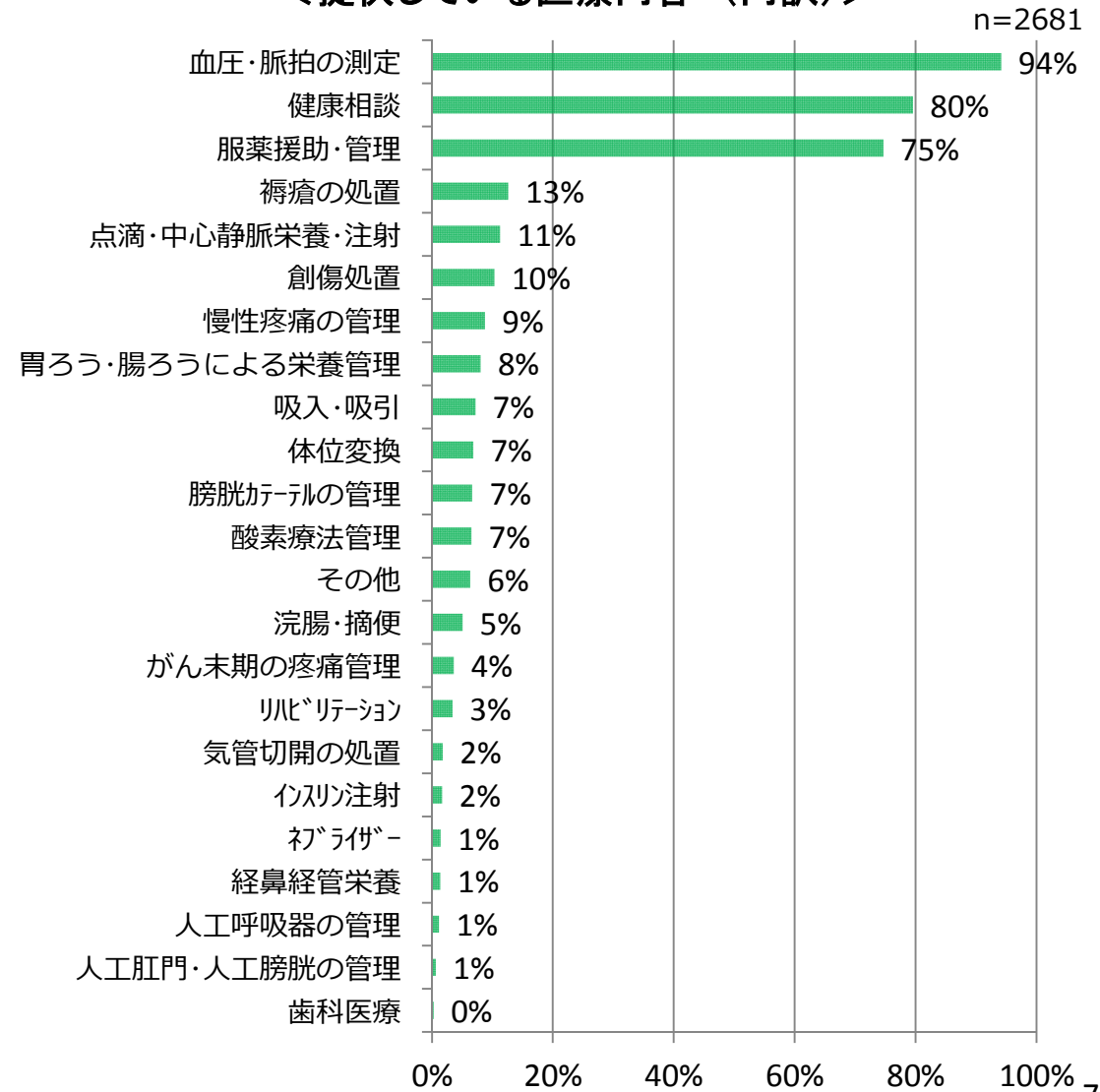


健康相談・血圧・脈拍測定・服薬援助・管理のみのもの

その他の内容を含むもの

無回答

＜提供している医療内容（内訳）＞



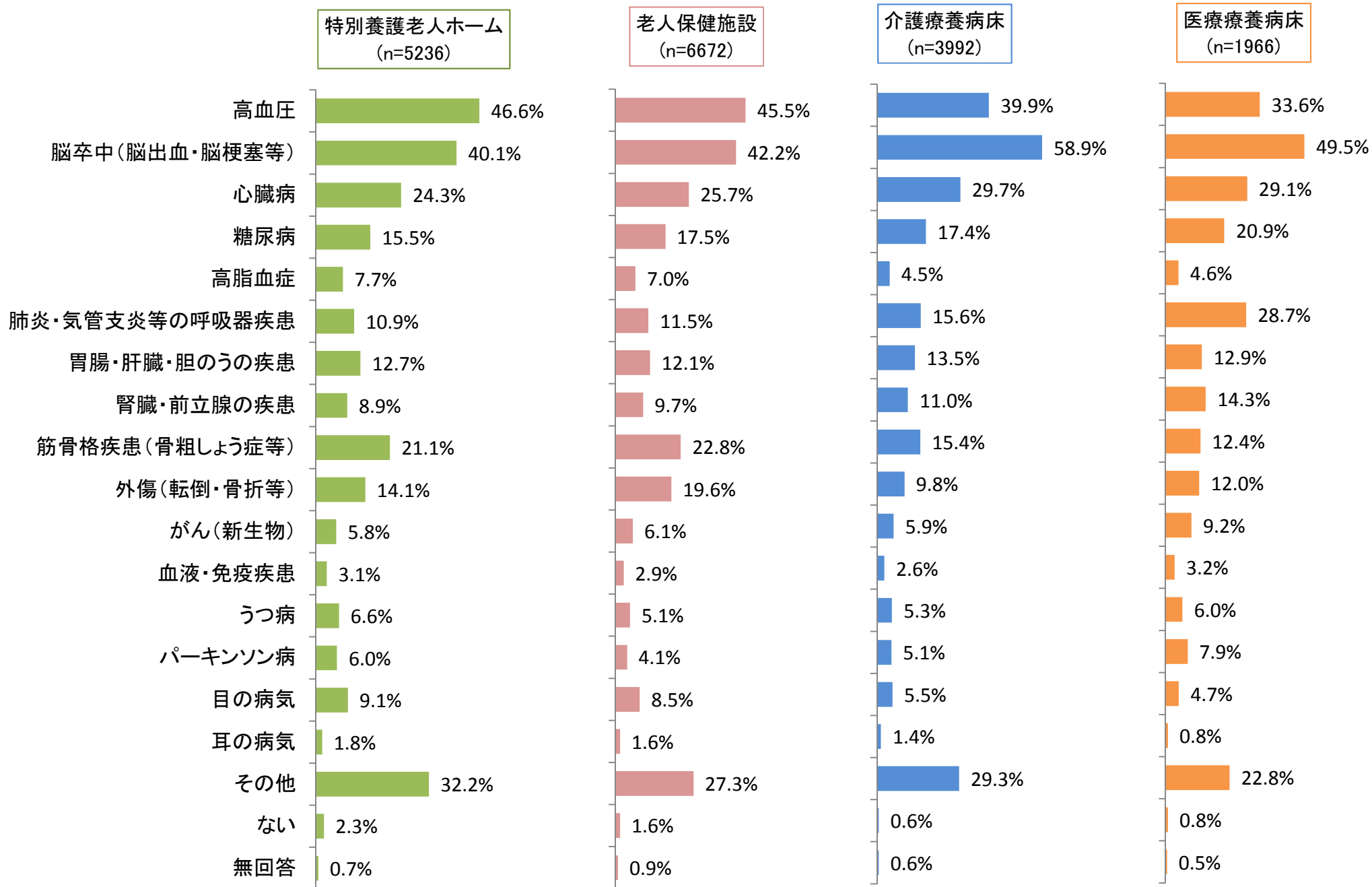
n=2681

7

※患者票のデータを、日計表における同一建物/非同一建物患者の人数にあわせて重み付けして集計

出典：平成26年度検証部会調査（在宅医療）

【参考】有している傷病（複数回答）



【参考】現在受けている治療（複数回答）

